

招請状

三里塚空港粉砕と関連事業阻止のための住民集会

三里塚空港粉砕の戦いを今日まで築きあげ、主体的にこの運動を担っている農民の同志諸君、近隣市町村にあって三里塚闘争を支援し、空港関連事業に反対し、あるいは政府農政と空港政策に対して無批判の追従をもって自認する各市町村の態度と地元無視の傾向に、さまざまの角度から独自の方法で憤りや不満の矢を放っている地域住民の友人へ、我々、三里塚芝山連合空港反対同盟と三里塚空港に反対する周辺住民活動者会議は左の趣旨に基づき住民集会へ御招請申しあげます。

一、三里塚空港粉砕・開港阻止

政府公団警察はこの六年間、北総台地を何をしたか。平安を望み農民にせいせんとする農民に何をしてくるたのか。三里塚芝山の農民が現在おかれている状況をよく視ることでこの間の解答は十分であろう。そして、このまま権力の為すがままを我らとその友人たちが許しおこなうならば農民と地域はそれ程遠くない将来死滅するであろうこと。三里塚の状態は指し示しているのである。この良否の決定権は我ら北の住民にあると我らは確信しているのである。暴走北総台地は永年になり農民を育んできた。今、突然政府の犬として公団が乗りこんできて戦後農政の幹たる開拓農民をたたき出し、永年たる古村を破壊した。昨年、二、七、九月、強制取用とは何だったのか。この國權の発動は、大木よねをはじめ駒井野、取音の農民三家の土地を没収し、家屋を焼き、農民としての生活を奪い去った。警察機動隊は何者だったか。農民の肉体をタテとガス弾で割傷して鮮血で土をまみれ、善朴なる学生三千人を逮捕、長期にわたり拘禁し、農学五人を傷つけた。農民の家屋・田畑に突進してこれをみみ荒し、監視の住民を追いまわしてガス弾を振るまった。これらの因果で警官と農民の中に四人もの死者をつくらせたのである。だがこれらの國家的、政治的犯罪はここで終るのではない。今後、日本農民の意地を通して戦い、居すわりつづける決意の、用地内六十家の農家の歯をみせ、その前段攻撃として四十五名の青年を人質に奪い、権力の犯罪の総責任をこの青年行動隊に転嫁しているのである。

二、空港関連事業の阻止行動

空港政策による直接的被害は三里塚芝山の現地農民に限られるものではないことは昨今とみに明白になってきている。高圧高熱性のパイプラインの埋設が千葉港と空港間で急がれ、住民の抗議を無視して開始されようとしている。また、多古・大栄・八日市場・野栄・富里・八街・成田の各市町村の各部落と田畑宅地は道路や用水事業、鉄道の新設による破壊と分断に直面し、いずれも農業と生活の維持に多大な犠牲と被害が明らかに予想されるのである。

一、集会名 三里塚空港粉砕・六月開港阻止住民集会

一、日時 一九七二年三月十一日(日) 正午

一、場所 三里塚第二公園

- 発起共催者 三里塚芝山連合空港反対同盟、芝山町新道反対協議会、富里空港反対行動隊、八街町空港反対同盟、山武町空港反対行動隊、成田市民の会、三里塚空港反対・住民の生活と権利を守る多古町民会議、船橋農民組合、多古町空港問題研究会、八街町社会問題研究会、大栄町もうける会、八日市場町・野栄町三里塚を支援する会

空港は鹿島の新化学工業群、巨大な発電所計画のある鏡子と、京葉工業地帯を結ぶ要石に位置しているため、超高压送電線の新設計画や九十九里浜の観光開発でもわが通る北総台地を巨大資本の好む方向に破壊してゆこうとするであろう。これを権力者は「公共の利益」と称し、この地域の人間をも政府の望む方途へ再編成する動きがある。我らは北総台地の要石であり政治の中心である三里塚空港を阻止粉砕してはじめて住民自治、自立した農民としての生活の端緒に着くのであり、一切の関連事業関係住民と力を一にして空港を拒否し使用不可能に陥れることが共通の緊急課題なのであると信ずる。

三、騒音・公害・油害の排除追放

すでに横芝町・芝山町には騒音反対の住民運動が開始されている。滑走路南北の延長二〇K.M、幅五K.Mの地域は生活に重大な被害のあることは羽田や伊丹の例を見ても明らかである。しかも政府・運輸省は伊丹空港よりも規制の軽い羽田よりも成田については規制を削減して可能なならば二十四時間使用の方針を固めていると伝えられている。要するにこれは空港周辺住民を政府がナメてかかっていることを証明している。住民の空港に対する態度がきわめて無知であり甘いと判断する政府は、国際線のジャンボジェット機を無規制のまま何の態度も示さない住民の頭上を日に千回余り飛ばすというのである。防音校舎内の児童の勉強や周辺数戸の防音家屋の完全実施などは政府にとっては口から出まかせのおとぎ話以下なのである。誰が見ても不可能なことを可能と断って住民をだますのが政府たるもの政治であったことはすべての農民は百も承知のはずなのである。騒音・公害を許すか否かは被害予想地域の住民の能力と力のいかに完全にゆだねられている。我々はこの騒音・公害の元凶、三里塚空港を放逐するまで必ず戦い通すのである。

四、空港政策追隨の地域政治を住民の手に取りもどそう

空港関連事業と市町村の空港政策は、直接的に我らに負担をかけるような場合がたとえあつたかに見ても、今年度からの課税額がいかに増額されているかにおどろかないものはない。特に農民は深刻である。すでに後場や税金務所は住民のものではない。それどころか、政府の農政や空港政策と一体となつてむしろ住民との敵対関係に入つたと見てよい。農民切り捨て、住民無視の現実には我らにどのように対処するか。我らは一方的な空港建設や農政にせよ汗して稼いだ税金を便わしておくのか。だまっていればふんだく我らのためには全く使われぬとのない税金。この状態に至るまでの行政を放棄した我ら住民の責任は重大である。だが、政府・公団・友納農政に住民の声を反映させることができず、むしろ権力のなすがままを住民に押しつける各市町村の態度は荒民的で、腐敗している。我らは賢明なる住民として住民の力と結束による以外に我らの未来を我ら自身のものとするとはできないと肝に銘じて、今、すべての住民に決起をよびかける次第であります。

発起共催者

- 三里塚芝山連合空港反対同盟、霞ヶ浦・高浜入千拓反対同盟、芝山町新道反対協議会、富里空港反対行動隊、八街町空港反対同盟、山武町空港反対行動隊、成田市民の会、三里塚空港反対・住民の生活と権利を守る多古町民会議、船橋農民組合、多古町空港問題研究会、八街町社会問題研究会、大栄町もうける会、八日市場町・野栄町三里塚を支援する会